



道の駅平泉が優秀賞を受賞 いわて木材利用優良施設コンクール

「道の駅平泉」がこのほど、県産木材を有効活用した建物を知事が表彰する「いわて木材利用優良施設優秀賞」を受賞しました。柱、はり、桁などの主要部材に県産スギ材を多用した点が審査員から高く評価されたもの。1月8日に盛岡市の県民会館で開かれた30年度いわて農林水産躍進大会の席上で、町と設計会社、施工会社が賞状を受領しました。

道の駅平泉では今後も地域振興の拠点として、地域の皆様に愛される施設を目指していきます。



観光客らの安全・安心を守る 平成31年交通指導隊初点検

町交通指導隊(千葉慶信隊長)の31年初点検が1月9日、役場玄関前で行われました。

初点検には隊員8人が参加。隊員は手帳や警笛などの装備品を提示し、青木町長や菅崎文雄一関警察署長らの確認を受けました。決意表明では、千葉隊長が「飲酒運転の撲滅を重点に、世界遺産のまちとしての誇りを持ち、隊員一人一人が強い決意を持って活動する」と、町民や町を訪れる観光客らの安全確保を誓いました。



コミュニケーションの方法を学ぶ ひらいずみ女性の集い

「第12回ひらいずみ女性の集い」が1月12日、平泉ホテル武蔵坊で開かれました。町内外から約230人が参加。第1部では「平泉男女共同参画サポーターの会」の内藤まき子副会長が、男女共同参画理念の浸透を目指す同会の活動内容を紹介しました。第2部では、フリーアナウンサーの後藤のりこさんが「まわりの人とうまくいっていますか? コミュニケーションのコツを考える」と題して講演。より良いコミュニケーションの取り方を分かりやすく伝えました。



菅江真澄の新資料を発見 菅江真澄と平泉との関わりを示す

江戸時代後期の紀行家菅江真澄(1754~1829年)に関連する新たな資料が、町内の旧家所蔵の古記録の中から発見されたとして1月17日、解説や分析などに携わった関係者らによって公開されました。

資料は1786年に、中尊寺で開かれた漢詩・和歌・俳諧の集い「冬懐旧」に寄せられた詩歌を記録した冊子。「冬懐旧」の詳細や、菅江真澄と平泉との関わりを示す貴重な研究材料であることが分かりました。



ケロ平の人形を寄贈 学生が3次元プリンターを使い製作

奥州市の県立産業技術短期大学校水沢校の生産技術科2年の村松郁弥さんらが12月19日、町役場を訪れて、製作した世界遺産平泉PRキャラクター「ケロ平」の人形大小合わせて55個を町に寄贈しました。この人形は村松さんが「3次元(3D)プリンターの改良による地域貢献」をテーマとした卒業研究の一環で製作したもの。青木町長は「これだけ多くのケロ平に感激している。今後町が元気になるような活用策を検討したい」と人形の寄贈に感謝をしていました。



金色に光り輝く橋名板 新桜岡橋に取り付け

12月20日、町が町道祇園線改良工事の一環で進めてきた新桜岡橋が完成し、現地で橋名板の取り付け式が行われました。町では橋の完成に合わせて橋名板の揮毫を平泉小学校に依頼し、「さくらおかはし」を岩淵結衣さん(6年)、「一級河川太田川」を西米琉汰さん(6年)、「平成30年12月完成」を鈴木杏さん(5年)がそれぞれ担当しました。光り輝く橋名板を見た西米さんは「一生記念に残るものなのでうれしい」と満足そうに話していました。



雪が降る中中尊寺に若水を奉納 磐井清水若水送り

元朝に一関市東山町松川の磐井清水でくんだ若水を中尊寺に届ける「磐井清水若水送り」(実行委員会主催)が1月1日に町内で行われました。

地域住民と一般参加者合わせて約160人は小雪が降る中、一関市東山町から平泉町までの約20kmの道のりを約6時間かけて歩き、同寺の金色堂へ若水を奉納しました。

若水送りは、1993年に平安時代のお話を基に再現行事を行って以来、新年の行事として毎年実施されています。



町勢発展を誓い合う 平泉町新年交賀会

町、町議会、平泉商工会、JAいわて平泉が主催する「平泉町新年交賀会」が1月7日、平泉レストハウスで開かれました。会には来賓や各団体の代表者、区長や町民ら約270人が出席。青木町長と佐藤町議会議長が主催者を代表してあいさつ、藤原崇衆院議員、前田一人県南広域振興局副局長らが祝辞を寄せました。

参加者は新年のあいさつを交わしながら今年一年の多幸を願うとともに、町勢発展を誓い合いました。

